

様式第3号

会 議 録

会議名 (付 属 機 関 等 名)		令和5年度 第2回川西市産業ビジョン推進委員会		
事務局 (担 当 課)		市民環境部 産業振興課		
開催日時		令和5年9月27日(火) 午前9時～午前10時40分		
開催場所		Web 会議システム形式と対面形式の併用 (場 所 : 川 西 市 役 所 4 階 庁 議 室)		
出席者	委員	佐々木委員長、吉田副委員長(OL)、時任委員、山本委員(OL)、木原委員(OL)、辻田委員、長濱委員、宮本委員、西村委員		
	オブザーバー	藤森氏、九鬼氏(OL)		
	事務局	越田市長、市民環境部岡本部長、人見副部長、産業振興課田中課長、森田課長、田中主査、森本主査、松岡委託事業者 (株)地域計画建築研究所(2名)		
傍聴の可否予定		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	1人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		<p>1. 開会</p> <p>2. 議題 (1) 前回国議の意見対応について (2) 前期産業ビジョンの評価と課題 (3) 評価指標の更新 (4) 産業ビジョンの体系と主要施策について</p> <p>3. 閉会</p>		
会議結果		別紙 審議経過のとおり		

審 議 経 過

事務局	<p>1 開会</p> <p>定刻になりましたので、ただ今より、令和5年度第2回川西市産業ビジョン推進委員会を開催いたします。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本委員会は前回と同様にオンラインと対面の併用で開催させていただきます。オンラインでご参加の方は、ご発言の際はミュートを解除していただきますようよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、オンラインで参加いただく委員は、会議開始前に「映像及び音声により委員本人であること」、「委員長及び委員間での映像及び音声の相互通信が適正に行われていること」の2点について、確認を取っております。</p> <p>次に本委員会は、委員長と委員9名のご出席をいただいておりますことをご報告いたします。</p> <p>また、専門的見地よりご意見をいただくため、2名のオブザーバーにご出席いただいております。</p> <p>本日の会議は、参画と協働のまちづくり推進条例に基づき、会議内容が傍聴できる体制とし、公開のもと行って参ります。</p> <p>また、会議録の作成のため、当会議を録画・録音いたします。会議録の作成後、速やかに削除いたしますのでご了承のほど、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、お配りしております資料の確認をさせていただきます。</p> <p style="text-align: center;">< 資料確認 ></p> <p>それでは、議題に移らせていただきます。</p> <p>佐々木委員長、よろしくお願いいたします。</p>
委員長	<p>2、議題</p> <p>朝早くからお越しいたきありがとうございます。第2回川西市産業ビジョン推進委員会を開催させていただきます。今回からは、前回いただきましたご意見等を踏まえ、さらにつっこんだご議論をいただき、次回につなげる、大事な会議となっております。10時から越田市長もお越しになり、重点施策・重点事項につきまして、そのご意向などを説明される時間も設けています。本日もどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは次第に沿って進行を進めさせていただきます。改めてよろしくお願いいたします。</p> <p>今回は時間が9時スタートということで、午前10時半までとさせていただきます。前回の会議では、前期産業ビジョンの達成状況及び進捗状況、大まかな本市の産業をめぐる統計資料とビジョンの策定に向けた先進事例について議論を行い</p>

	<p>ました。本日は、前回会議でいただきましたご意見ご提案への対応や、現状の評価や課題、後期の産業ビジョンとしての成果指標や計画の体系及び主要施策を議題としています。</p> <p>先ほど申しましたように、10時から市長にご参加いただき、計画の体系や主要施策について意見交換できればと考えています。時間は限られますが、市長のご意見を確認させていただき、質疑時間が足りない場合は、ご意見・ご提案シートに記載の上、ご提出をお願いしたいと思います。</p> <p>次回の10月12日に予定しています第3回の会議においては、中間とりまとめとして、本日の議論を踏まえた上で、一定のビジョンの形となったものについて議論する予定としています。</p> <p>会議は10時30分までとじていますので、円滑な進行にご協力をお願いいたします。</p> <p>それでは議事に移ります。</p> <p>議題（１）前回会議の意見対応について</p>
委員長	<p>議題（１）前回会議の意見対応について、皆さんからいただいたご意見への対応等を、事務局が資料１にまとめてくれました。</p> <p>それでは、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p><資料１について説明></p>
委員長	<p>ありがとうございました。前回皆様から頂戴したご質問、ご意見について事務局でまとめてもらった対応でございます。何かご意見・ご質問はございませんか。ご意見・ご質問をいただいた皆様は、このような対応でいいのか、訊ねたニュアンスが違うなど、さらにこの点も追加で調べてほしいなどあればお願いします。Zoomでご参加の皆様もよろしいでしょうか。</p> <p>- 特になし -</p> <p>それでは、またお気づきになられて、さらにこういった点について聞いてみたい、意見を述べたいということがありましたら、あとで、または提案シートにまとめていただければと思います。</p> <p>議題（１）については、全員で確認させていただきました。</p> <p>続いて、議題（２）に移らせていただきます。</p>
委員長	<p>議題（２）前期産業ビジョンの評価と課題</p> <p>議題（２）は前期産業ビジョンの評価と課題です。こちらも資料２にまとめていただいています。説明をよろしくをお願いいたします。</p>
事務局	

	<p style="text-align: center;">< 資料2について 説明 ></p> <p>委員長 ご説明をありがとうございました。</p> <p>前期産業ビジョンの評価と課題について、ご意見・ご質問はございますか。</p> <p>Zoomで参加の皆様はいかがでしょう。議題（１）につきましても、改めてご質問、ご意見等はよろしいでしょうか。もし、この後、ご意見、ご質問がありましたら、ご提案シートにまとめていただき、ご提出いただきたいと思います。</p> <p>議題（２）についてはいかがでしょうか。評価などで質問も出にくいかと思えます。</p> <p>議事（３）の評価指標の更新で、この現状や前回ご議論いただいた点も踏まえて、指標の更改が行われていますので、（３）で改めてご意見、ご質問等をお願いできればと思います。よろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">- 特になし -</p> <p>それでは、前期産業ビジョンの評価と課題についても、この場で委員の皆様と確認させていただきました。</p>
委員長	<p>議題（３）本市の現状について</p> <hr/> <p>続く議題（３）からが次のビジョンに向けての課題となります。評価指標の更新について、事務局から説明をよろしく願いいたします。</p>
事務局	<p style="text-align: center;">< 資料3について 説明 ></p>
委員長	<p>ご説明ありがとうございました。</p> <p>現行の基本方針の評価指標を踏まえて、諸変化を鑑みて改定後の基本方針の評価指標をご提案いただいています。お気づきの点やご意見、ご質問はございますか。目についたところで、お考えのところやもう少しこうしたほうがというところがあれば、よろしく願いいたします。</p>
委員長	<p>まず私からお聞きします。基本方針4の市民就業率の目標値と総合計画の目標値を変えられています。基本方針の1～3では総合計画と合わせているものが多くなっており、48%と49%で取って合わせなかった背景はあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>就業率は今まで指標として取っていなかったものなので、過去からの推移を見ると、就業率自体は上がったたり下がったりしていますが、65歳以上の方の就業率はかなり上昇してきており、高齢化の影響はあると思いますが、それを踏まえて令和9年度から13年度にかけて、さらなる上昇が考えられるため、1%の上昇するような数値にしています。</p>
委員長	<p>逆に言うと、基本方針の1～3に至っては、令和9年度から13年度は横ばいで変化を見づらいということですね。ありがとうございました。</p>

	<p>他にいかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>就業率について気になったことがあります。今、兼業、副業的なものが増えてきていると思います。主の仕事がある中で、個人的に他のことに参画したりしていますが、このような数値は就業率に反映されるのでしょうか。個人が多数の仕事をしていても、「働いている／働いていない」の「0か1か」で見ている数値でしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>就業率は、就業者を15歳以上の人口で割っていますが、主に仕事をしている人、家事のほかに仕事をしている人を就業者としているため、「0か1か」で取っています。副業はこの資料では上手く表現できていません。</p>
<p>委員</p>	<p>多分、どうしようもないと思いますが、副業を認めている企業と認めていない企業があり、混然としています。今後、労働人口が減っていく中で、一人の人が3つ4つの役割を持つのが当然の状況になると思います。そのあたりも見据えた考え方に変わっていかねばならないと思いました。</p>
<p>事務局</p>	<p>国の調査を使用しているため限界がありますが、多様な働き方があり、趣味の範囲でお小遣い稼ぎをする兼業もあると思います。今は主な働き手の数値になります。</p>
<p>委員</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>委員長</p>	<p>今のご質問は、就業率では兼業や副業が補足できないので、そのあたりをどう見るのかというものでしたが、現行ではなかなか捉えられないため、このような数値でとりあえず諮りたいとのこと。</p>
	<p>その他いかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>では私からで恐縮ですが、目標値はある程度大まかな数値で出されています。ただ基本方針3では市内の事業所数や商品販売額などはピンポイントの数字で、基準値のまま出していますが、目標値の設定としてはいかがでしょうか。ビジョンとしてはオーソドックスな表現なのか、見解をお聞かせください。</p>
<p>事務局</p>	<p>基本方針3に関しては、「維持」としている数値は端数を切っていません。表現自体はどうかと思いますが、内容としては上昇が難しい指標が多く、数字が小さいものもそのような取り方をしています。現状ではそのままの数値で目標とさせていただいています。</p>
<p>委員長</p>	<p>目標なので高い目標を掲げるか、現実的には低い目標になるかもしれませんが、目標と現状は別の次元のものであり、こういう示し方もあるのなら違和感はないのですが、現在の示し方は結構違和感があります。</p>
<p>事務局</p>	<p>公務員が資料を作ると、チャレンジングなものが書きづらいところもあると感じています。これではダメだと言っていただく方がいいと思います。成長を見ていかないと、産業ビジョンは成立しないということが根底にあると思いますので、委員会の総意であれば、当然、そのように変更します。</p>
<p>委員</p>	<p>私もこれを見て、令和9年度は少し高めの丸めた数値にされた方がいいと思</p>

<p>委員長 委員</p>	<p>ました。ここだけリアルな数値でスライドしているので、違和感があります。深い理由がないのであれば変えたほうがいいと思いました。</p>
	<p>この点について、他にいかがでしょうか。</p>
	<p>皆さんからご指摘があったところで、特に農業産出額についてですが、目標をそのままの数値としていただくとわかりやすいですが、おそらくこれは、下がっていくところをどうにか今の数値で維持しようということ表現したいのだと思います。想定では多分減ると思います。担い手が高齢化しており、新たな担い手が見つからなければ、どうしても産出額は下がると思います。それを施策として担い手を育成した結果としての維持とするか、もしくは、市の方向性として、農業というのはここでは維持が難しいので減らすという目標を立ててもいいと思います。施策との関連性、方向性も含めて、維持の意味がそのまま何もせず維持なのか、減っていくことを踏まえた上で今の数字を維持するという目標なのか、その点を教えていただければと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>農地の減少を見ても、農業収益が下がることは明らかな状況になっています。ただ、川西市を支えてきた農業従事者の方をないがしろにするわけにもいかず、どのような表現ができるのか悩んでいるというのが正直なところです。おそらく確実に減っていく中で、それでも主要生産物を守ることや、例えば調整区域内の生産緑地を維持するなど、明確な表現をする必要があると意識しています。</p>
<p>委員長</p>	<p>4億4千万円の目標値をどう捉えるかについて、このままでは減少していくものについて現状維持を目指すという、ポジティブな意味の目標設定だと説明をいただきました。そう捉えてよろしいですね。</p>
<p>事務局</p>	<p>そう言い切れるかどうか、厳しい数値とは思いますが。特に都市計画内農地、生産緑地も含めて6.5ha減っていることを見ますと、確実に減っていきます。都市計画区域内の方が生産性は高いという状況があるため、農地はできるだけ維持しなければいけないですが、生産の維持や土地利用は所有者の判断に任されていますので、止めようがないというのが正直なところです。</p>
<p>委員</p>	<p>農業産出額だけでいいのか気になります。特産物のイチジクを維持していくのか、あるいは立地を活かして市民農園を増やしていくといった目標を設定するのであれば、市民農園の開設数なども目標値に入るのはないかと思います。施策と関連したわかりやすい指標があったほうがいいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。大きな議論として、ひとつは基本方針3では細かな数値で目標値が設定されていますが、ビジョンとしての目標を示すことが大事であり、そのままの数値の維持ではビジョンとしての方向性がわからないという点です。これは事務局で持ち帰って検討していただきたい。</p>
	<p>もうひとつは指標のラインナップで、方向性を具現化、見える化できるような指標が考えられないか。あまり時間のない中、しかも現行ビジョンからの引継ぎ、踏襲、発展という観点もあるため、難しい点もあるかと思いますが、残りの2回</p>

委員	<p>の委員会で可能であれば検討していただければと思います。</p> <p>その他にはいかがでしょうか。</p> <p>目標の決め方について、我々のすべきことは嫌がられることも言うことかと理解しており、少し伺いたいのですが、先ほどの委員のお話を踏まえると、現状維持であっても、社会的状況を考えると減少するという流れの中での現状維持であれば、それはチャレンジなことと見ることもでき、上向きになっていないことが、イコール、チャレンジしていないことではないと理解しました。それならば、起業と観光の数値は微増や現状維持になっていますが、ここ数年の流れの中で、実現可能性の高いラインで設定しているように感じます。ビジョンとしてこれでいいのでしょうか。ただ、いたずらに大きな数字を置くのでは大変なことになるだけなので、しっかり分析して、このような施策を打つということを踏まえ、それが狙えるラインなのかどうかを検討する必要があると思います。この部分は期待される部分ではないかと思っているので、発言させていただきました。観光であれば、令和3年度から80万人下がる目標設定になっており、コロナの影響が大きかったと考えるのであれば、もう少し上げるべきではないかと思います。ただ、そうではないかもしれないと思う部分もあります。そもそも、この数値の主要なコンテンツは何なのか、イメージでは猪名川花火大会、清和源氏まつり、音灯りなどかと思いますが、もしそれがなくなっているのであれば、観光客を増やすためにコンテンツを増やさなければならないので、結構難しくなります。もう少しつつこんで考えて、掲げなければならないと思います。</p>
委員長	<p>おそらく、次回の議論の中でアクションプランが入ってくるので、それとの整合性が問われるのではないかと思います。そのプランを具現化して、このような数値を実現するという説明をいただければと思います。</p> <p>他にないでしょうか。</p> <p>評価指標についてもご意見を多数いただきました。まとめますと、目標値を提示していますが、その背景などをもう一度再確認して、次回の再提示につなげていただきたいということ、二つめは、非常に細かい数値になっている現状維持的な目標値を、ビジョンの目標値としての観点から再考をお願いしたいということ、三つめは、現状維持を図ることも含めて、どのように数値をとらえるのかということだったかと思います。</p> <p>議題(3)は一旦これで締めさせていただきます。大事な部分ですので、ご意見等ありましたら、この後や提案シートでご指摘いただければと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、次の議題に移らせていただきます。</p>
委員長	<p>議題(4) 産業ビジョンの体系と主要施策について</p> <p>議題(4) 産業ビジョンの体系と主要施策について、事務局からご説明いた</p>

事務局	<p>き、10時に市長が来られますので、来られましたら市長のお考えを伺うこととさせていただきます。それでは説明をお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">< 資料4について 説明 ></p> <p>- 市長入室 -</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ご質問等を受けたいと思いますが、市長が来られましたので、まずお考えをご説明いただきたいと思います。</p> <p>今日は直接、市長からお話を伺えるということで、特に市長のお考えの方針や重点項目についてご説明いただき、本推進委員会でも活かしていきたいと思っています。</p>
市長	<p>皆さん、おはようございます。市長の越田でございます。産業ビジョン推進委員会の皆様におかれましては、佐々木委員長をはじめ、委員の皆様にご活発なご議論をいただいていると報告を受けております。前回もいい議論があったと聞いていますし、皆さんとのディスカッションを楽しみにまいりました。</p> <p>審議会は市長の諮問機関ですが、通常、市長と一回も議論をしないまま、事務局と委員会で議論をしている傾向が強かったと感じており、市長に就任してから、市長の諮問機関は市長と議論したうえで、ここからは委員会にお任せするということが前提としてあるべきと考え、各審議会の委員の皆さんとはこのような形で議論をさせていただいています。今回は産業ビジョンの見直しですが、産業ビジョンに至るまでに、私自身が川西市をどうしていきたいのかについてお話をさせていただき、そのうえで産業分野での、私自身の悩み事やこんなことをしたいという話をさせていただきたいと思います。</p> <p>川西市は、豊かな自然と大阪への利便性、豊かな人材がいる、住宅都市としての特徴を兼ね備えた街になっています。まちの人口は、1年間でお亡くなりになる方が2000人近く、生まれる方が800～900人ほどですから、何もしなければ毎年千人程度が減っていく状況です。ただ、子育て世代には相対的に選ばれているまちということもあり、中心市街地や一部の住宅団地には若い世代が流入しており、年によってプラスマイナスはありますが、総体的にはプラスになる年が多くなっています。川西のまちづくりとしては、住宅都市や暮らしやすさ、居心地の良さ、心地よさなどを捨てるわけにはいきませんので、一気に産業都市や工場のまちを目指しているわけではなく、住宅都市である川西市に、どうすれば新たな価値を生み出すことができるのか、これが産業分野の皆さんに期待しているところです。ただ、ベッドタウンには歴史的に厳しい問題があることも認識しています。川西市は50年前にまちを開き、住宅都市として展開した歴史がありますが、住宅都市</p>

は人口増加を前提としたモデルであり、人口が増えて都心で暮らせなくなった方がどんどん外へ出て行く、これが住宅都市の基本的な成り立ちで、人口が減ると梅田周辺の都市開発のように、駅前でも暮らせるようになるので、広がった住宅街が縮んでいくことは必然となります。しかし、歴史的な必然だからと言って川西市を閉じるわけにはいきませんので、住宅都市として一本足で過ごしてきた私たちが、新たな価値観を作っていきたいと思っています。そのキーワードのひとつが、川西市で働く場所をつくっていく、川西市で楽しめる場所をつくっていく、このようなことを大きな価値と考えています。前回の議事録を見せていただきましたが、起業と言った時に、ビルゲイツや堀江さん、三木谷さんといった方が川西で生まれるかということを見ると、もちろん、川西市民の方が、東京や海外に挑戦してそのようになる可能性を否定するものではありませんが、川西という狭いマーケットの中で、川西に事務所を持ってビルゲイツが生まれるということは想像し辛く、そこを目指すよりも、川西に根付いた地域の産業人、ビジネスをされる方を増やしていく方法はないでしょうか。また、川西市の特徴として大阪で活躍するビジネスパーソンはたくさんおられますが、そうした方々が川西の中で地域活動を重点的にされていたり、川西市内の事業者と繋がったり、ということは非常に少ないと思っています。外食で隣に座って食べていた人が、たまたま川西のすごいビジネスマンだったということはあっても、そうした方々が川西市内で出会うことがないので、マニフェストにも書かせていただいたように、大阪やその他で活躍している川西市の人材と、今、川西市内で活躍している人材を結び付けていくことで、大阪で活躍されている方もいろいろな成長につながり、ビジネスにつながる、川西市でビジネスをされている方もしっかり育っていく、そのようなことができないかと思っています。ただこれは私の想いであり、そもそもそのようなニーズがあるのか、それをして意味があるのか、あるいはそれは金融機関などで異業種交流会があるからいいということもあるかもしれません。ただ、私としては、これだけ多くの財産が川西にありながら、それぞれが繋がることがない状況を変えていきたいという問題意識を持っています。それによって新たな価値が生まれるのではないかと思います。

二つ目は働く場をつくることで、マニフェストの中では起業される方の支援をクラウド化できないかということ掲げています。これもクラウドファンディングにこだわっているわけではありません。ただ、どうしても起業家支援は補助金メニューになってしまいますので、これからの起業家支援としてそれでいいのかという問題提起をさせていただきました。本来はビジネスであり、自分たちでビジネスを回すべきであり、そもそも採算が取れない事業であれば、それはビジネスではなくビジネス以外の分野で担うべき役割だと思います。ビジネスとしてどうやって自立するのか。私はサラリーマンの子ですが、身内に事業をしている人間がいない立場からすると、多くの方にとって起業することは、背水の陣を引

いて、家族ごと質に入れて、失敗したら人生が終わり、家族もろとも川西から出て行かなければならないといったような、気持ちのハードルが高いところがあるのではないのでしょうか。かなり変わってはきていると思いますが、ハードルがあるのは事実だと思いますので、それを下げる、あるいは乗り越える後押しができればいいと思います。大きな起業ではなく、小さな起業が増えることがいいのではないかと考えています。起業支援をする方からするとそんなことはないというのが現場感なのか、あるいは実際に起業された立場からはこうだったということなどを教えていただき、産業ビジョンでも具体的な取組として盛り込めればと思います。一方、非常に可能性も感じており、今日も関係者にご参加していただいている中心市街地の活性化につきましては、この数年間、コロナがあったにも関わらず、駅前のペDESTリアンデッキなどの規制緩和をしたこともあり、今では私でも毎日どこで誰が何をしているのか把握できないほど、川西能勢口駅で何かが起こっている、キセラ川西でも誰かが何かをしているという状況です。それが少しずつ広がり、ここで頑張った方々が各地域でいろいろな活動をしていただいております。これを市全域に広げていきたいと考えています。ベッドタウンという特徴上、どうしても昼間に買い物をするところは夜になると静かで、真っ暗で、家に帰って能勢電を降りると飲みに行く場所もないというまちの成り立ちになっていますが、高齢化も進んでおり、このまちで楽しめる場所をつくる、ただ単に楽しませてあげるのではなく、一人ひとりがプレーヤーとして関わり、楽しめる場所が必要なのではないかと意識を持っています。梅田のようにネオンがキラキラするような場所ではなく、市民が手作りでそういう場所を作っていくことができないかと考えています。昨日も三角広場で火曜ナイトという初めての取組を、キッチンカーの皆さんを中心に行いました。参加者に市役所の職員率が高かったのが課題ですが、「火曜ナイトって何ですか」と賑やかなので来てみたという方もおられましたので、その方々がお客様ではなく、次はこんなことをしたい、こんなものがあればいいと、自由にディスカッションできるようになればと考えています。

最後に、大切なところですが、答えが出せなくて困っており、今日ご参加の木原先生をはじめいろいろな方にもアドバイスをいただいていることをお話しておきます。川西市の特徴と言えば、絶対出てくる二つのキーワードとして清和源氏とイチジクがあります。このうちイチジクは、生産緑地の指定が解除され、農地がどんどん宅地になるという状況があります。川西からイチジクがなくなった時、市民の皆さんが共通して思い出せる大切なものがなくなるのは困るなと思っています。これは産業に留まるものではなく、川西市のアイデンティティに関わるもので、「農」というものにもともとそういう意味合いがあるのかもしれませんが、そこは政策として十分打ち出せておらず、担当も悩んでおり、皆さんとディスカッションしながらアドバイスをいただければと考えています。

	<p>今日は私がお話をするよりも、こんなことができるだろう、これについてどう考えているのかなど、意見交換ができる場になればと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>越田市長、ありがとうございます。せっかくの機会ですので、ご説明いただいた点や、産業ビジョンに関わる点について、直接ご質問いただければと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>産業ビジョンなので的を射ていないかもしれないのですが、子育て支援や若い世代をまちに取り込むことは、この計画の中ではあまりふれていないと思いますが、それは別のところでカバーされているのでしょうか。人口が減っていく多死社会の中で、このまちにずっと居続けたい、移住したい層を増やしていかなければどこかで限界が来るのが目に見えているので、そこをどう考えられているのでしょうか。豊中市では9月半ばに「子育てしやすさNo.1」を掲げて、5年で100億円投資するというプレスを出されています。明石市のようなものを目指すのか、詳細はよくわかっていませんが、周辺が手を打ってくる中でどのようなお考えがあるのかをお聞きしたいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>大きなまちづくりとしては、川西市第6次総合計画が市全体のビジョンを描いているものになります。現在、パブリックコメント中で正式な決定前ではありませんが、心地よいまちをつくることを目指しています。心地よさの前提として、基本的な姿勢で、まず子どもの幸せから始めることを掲げています。約20の部門別計画があり、その全てを総合計画に書くわけではありません。そういった意味で、産業ビジョンは、その中の産業分野の計画として位置付けています。一方で私たちも、令和5年度当初予算では、政策は子どもと教育から始めるとしており、かなり力を入れています。ただ、打ち出し方として、私のこだわりもあるとは思いますが、お金を無料にして他所のまちから人を取ってくることは、社会全体で見れば生産的な話ではないと考えています。もちろんそのことを否定するわけではありません。我々も医療費の無料化等をこの数年間でかなり拡大してきたようにそれも必要なのですが、「子どもの幸せから始める」という表現は、その行為が本当に子どもの幸せにつながっているのか、医療費の助成に1億円使うことと、教育環境に1億円使うことは、どちらが子どもの幸せに直結するのかを考えてお金を使おうとしています。そして、教育面では世間的には地味だと言われますが、不登校の子どもたちへの支援、例えば校内フリースクールやサポートルームという言い方をしていますが、教室に入ることができない方や教室に入らない選択をした方、家から出にくい方に対応するため、すべての学校に教室以外の居場所をつくっています。こうした取組で人を配置して実施しているのは、日本でもわずかな自治体だと思いますし、最近NHKでも特集されました。ただ、豊中市のように、5年間で100億円とか、5つの無料化という、非常にわかりやすいと思います。一方、不登校対策で、困っている人に、光を当てて幸せになるんだというのは、ゆっくり話を聞いて下さる方は「それは大切なことだ」と納得して下さる</p>

	<p>のですが、なかなかキャッチなフレーズにはならないことには少し困っています。ただ結果を見ると、川西市は相対的に選ばれているという実態があり、今、住んでいる川西市民を幸せにしていく、幸せが増えていくことで、結果的に川西で暮らしたら幸せだから、外に出て行くのをやめよう、幸せだったから戻ってこようと思ってもらえる、そのような循環をつくっていきたいとの想いです。ただ、長いフレーズを、わかりやすくひと言で伝える言葉というのは、ぜひ皆さんにもご意見をいただきたいところです。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。委員の皆様方、いかがでしょうか。Zoomの委員の皆様もせっかくの機会ですので、ご質問があればお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>気になっているのは全体的なイメージで、川西市で様々な事業を展開する、もしくは事業補助をする施策を、それぞれの部署がされていることはわかりますが、住民の方の自立性を促さなければ副業なども進みません。どのように進めるかということで、ひとつの方法として中心市街地の活性化などに取り組みられていると思いますが、それを市が主導でやってしまうと、どうしても住民の方はハードルを高く設定して、自分ではできないと思ってしまい、市が何かやっているからそれに乗っておけばいいという考えを助長してしまうのではないかという点がこの産業ビジョンでも気になっています。例えば、市が掲げている役割やビジョンを、ビジネスとして立ち上げられた方々に賄っていただけないでしょうか。第3セクターとまではいきませんが、市が考えていることの一部をビジネスで行う方に渡していくことはできないでしょうか。基本方針の1や2は、そこに関わるでしょうし、私の専門の農業でいえば、市としても農地の放置や転用を防ぐために、市が開発しなければならないところもあると思いますが、大企業が近くにあり、そこに通勤されている方々がいるのであれば、今はJAが農福連携で事業をされているところについて、例えば、企業の福祉事業を農地に誘致することができないのかどうか、また、それを自主的に始めていただく流れをつくるにはどうすればいいのか、ということも、ひとつの方向性としてあると思います。市としてどこまで関わるのか、始められた事業やビジネスに、市のビジョンをどこまで託すことができるのか、役割分担をするタイミングが来ていると思います。もしお考えがあればお聞かせいただきたいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。まさに悩んでいるところです。例えば、市が補助金を作った場合、進捗状況はどうか、応募件数は何件なのか、どうしてこんな状態なのか、と市長としては当然チェックをしていくことにはなりますが、チェックをすればするほど、これは一般論ですが、市長にゼロでしたと報告するわけにはいかず、1件でも2件でも何かないと探すことになり、補助金が必要な人が応募をするというよりも、補助金があるので使いませんか、市が逆営業をするようなことになってしまうことがあります。場合によっては、雨が降っていないのに傘をさすような雰囲気にならないかと懸念しながら、我々としては何かをしなければ</p>

	<p>ばいけないということで、そうした補助制度になっていかないかという矛盾を懸念しながら、次の制度をどうすべきか考えています。一方で、商工会なども含めて、新しく何かを作ることよりも、既存の取組の中で市と連携している方々や、様々な士業で支援をされている方々などと上手くネットワークを作り、その共通の課題として、これだけは市が解決しなければならない問題であると決めて制度ができればいいのですが、どちらかという、市が先に補助制度を作ろうとしてしまいます。そこはこのビジョンの中で少し深めることができればと思います。</p>
副委員長	<p>ご説明いただいた内容について共感しながら伺いました。住宅都市として産業界で活躍する人材こそ資源であると位置づけられていることに、とても共感しています。先ほどの委員のお話とも関連しますが、それを地域課題の解決と結び付けたいという想いがあるように拝聴しました。そこで質問ですが、ビジネス交流スクールが新しい事業として提案されていますが、「何をやるのか」がとても大切だと思います。つくっても集まるかどうかわかりませんし、そこで何を目的にするのかで、その後の展開も違うと思います。現状で進んでいる取組、それが無いとすれば具体的なアイデアなどがあれば、お伺いしたいと思います。</p>
市長	<p>具体的に何か絵を描いているかと聞かれると、まったく描けておらず、おそらく担当も、市長が何をゴールとしているのかが見えなければ描けないと思っているのではないのでしょうか。私もこれが答えだと言いきれないため、少し幅をもった表現になっています。ビジネススクールなのか、交流の場なのか、どちらでもないのかということになりますが、問題意識としては、川西にお住まいで、いろいろな能力やスキルを持った人と、このまちで活躍している人たちを結び付けて、新たな価値をつくりたいということです。地域課題の解決やそこで新しいビジネスが生まれていく、といった産業面からのアプローチをしていますので、一緒に起業してもいいですし、お勤めの企業と地元の企業がつながるということでもいいと思います。</p> <p>お金が全てではありませんが、このような取組を通じて、どうすれば市民が幸せになれるかを考えられれば。収入が増えるという少し言い方が適切でないかもしれませんが、産業ビジョンなので許していただきたくとして、そこから何か生まれて、自分たちが経済的にもハッピーになるような仕組みにならないと、単に勉強して、自分たちの持っているものを提供するだけでは持続しないと思っています。それが直接ビジネスにつながらなくても、そこで一緒に学ぶことで、それぞれがもう一度初心に立ち戻って活動するということであっていいかもしれません。私もまだ抽象的なイメージしかないので、これから形を作るところです。不足しているものなどをここにおられる皆さんにご議論いただき、アイデアをいただきたいと思っています。</p>
副委員長	<p>ありがとうございます。大企業にいらっしゃる方で、自分の定年を見据えた方々</p>

長	<p>というのは、自分の仕事も含めて、地域活動や地域の方とのつながりを増やしたいというニーズを一般的に持っているように思います。どういうことに力を必要としているのかという投げかけを市からしていただけると、関心を持つ方もいらっしゃると思います。いずれにしても、そこでやろうとされていることは、やり方によっては実現可能なことだと思いました。ありがとうございます。</p>
委員長 ワガザ バー	<p>ありがとうございました。まだ時間はありますのでどうぞ。</p> <p>せっかく産業ビジョンを作るのであれば、川西らしいものができればと思っています。起業支援については、川西で起業したいと思われるような、住んでいる人や市外から見ている人に、起業しやすいまちだと打ち出せるような施策ができればいいと思っています。他の地域であれば、空き店舗対策でそこに何か誘致するとか、インキュベーション施設を作るなどの手法がありますが、川西市はそれが当てはまりにくいかもしれないため、別の形でできればと思います。ひとつのエリアが活性化すれば、みんなが来たがるようになるかもしれません。具体的にはセミナーや交流、補助金といった話もあるかもしれませんが、相談のしやすさや支援の体制を作ることで、川西を起業しやすいまちと見てもらえるような企画ができればと思いました。</p> <p>大阪のビジネスパーソンの話は、同じようなことを考えています。具体的にどうすればいいのかが難しいのですが、その人たちに、地元の事業者さんなどと混じっていただくような形や、大手企業に勤める川西在住の人たちが、勤めを続けながら、今まで会ったことがなかった人と交わって、地域貢献や自己実現の場を川西でつくる、もしくは、そこから話がつながり、独立に向けてやっていくような場をつくるということには賛成です。ただ、既存事業者についてもおざなりになってはいけないので、既存事業者の方が市内でもっと事業を続けたいと思うような施策を打てればと思います。利用しやすい補助金、あるいは他の事業でもアピールしたいものがあれば、商工会でもPRやプレスリリースの発表会を市役所でさせていただき、より事業を知っていただくような取組もしていますので、そのあたりも市と一緒にできるのではないかと思います。川西で起業したい、川西で働いているビジネスパーソンがもっと外に出やすい、現在の事業者がもっと川西市内で事業を続けたいと思うような取組ができれば、すごくいいと思います。</p> <p>また、SDGs的なものも、このご時世なのであればいいと思います。</p> <p>それから、川西のプロモーションの推進について、観光入込数の話に花火のことが入っていないのですが、花火のことは書く必要はないのでしょうか。</p> <p>さらに、三ツ矢サイダーをPRすることになっていますが、PRして、次に何か展開できるのかがわかりません。川西では三ツ矢サイダーを製造していませんし、川西でPRしても産業振興につながるのか疑問を持っています。</p>
市長	<p>起業のしやすさについては、補助金もそのひとつかもしれませんが、起業するために会社を辞めて起業セミナーに来て手遅れという方が多く、結果として会</p>

社を辞めないほうがいいと思われる方もおられるのではないかと思います。むしろ悩んでいる時に相談できれば、それは起業ではなく副業でいいのではないかと、それなら同じようにやりたいという人を探している人がいたので、二人でやってみたらどうかという話もできます。相談のし易さもひとつの要素です。また、雰囲気としては、起業を応援するのは、お客様やお互いのお店同士ではないかと思えます。業界、例えば昔の夜の飲食店などでは、新しく店舗ができれば皆さんで一回はその店に行くといった雰囲気や関係があったと思えます。何か新しくお店ができたなら、せっかくなのでみんなで声を掛け合っに行こうということが当たり前になっている、起業した人が頑張れるようなまちの雰囲気は重要だと思います。市の職員や私も、補助金を使って独立したところは気になるため、思わず行ってしまいます。それが市民みんなの中に意識としてあるとありがたく、そういうまちになれば起業しやすい雰囲気になるのではないかと思います。

交流のところでは言い忘れましたが、問題意識として、日本の社会人、大人は勉強しているのか、学んでいるのかと思うところがあります。ここにいる皆さんはいろいろな機会に学ばれ、自ら積極的に学ばれている方々がお集まりだと思えますが、世間一般では世界に比べれば学ぶ時間は少なく、リスキングなどとも言われますが、学ぶ機会も少ないと思っています。そこで、単に「出会って何かをする」「ビジネスするために」というよりも、まずは学べることをキーワードにして人を集めたいと思っています。ビジネスと儲けようとする人がギラギラして集まるよりも、学ぶために集まった結果がビジネスになる、という仕組みこそ川西らしさをイメージするものとしてやっていきたいと思えます。

観光については、花火大会を観光に位置づけていないわけではありませんが、花火大会はビジネスと結び付けるのが非常に難しく、一斉に数万人が来て、しかし数万人を飲み込めるような受け皿が川西能勢口駅周辺にあるわけではなく、流れるように帰っていきます。一部でお店に入ってくださいる方もありますが、花火で得られる消費よりも警備費用の方が高くて、安全性にドキドキしながら警察と協議しているという状況の中、何のために花火をするのか、お客様を呼ぶためなのか、川西市民の夏の忘れられない思い出と位置づけるのかということ、我々としても協議しなければならぬことです。池田市との共催ですので我々だけでは考えられませんが、そうした問題意識は持っているため、内部で検討させていただきます。

三ツ矢サイダーのアサヒ飲料は来年140周年、川西市も市制70周年というひとつの節目であり、また「三ツ矢サイダー発祥の地」というのは他のまちにはない歴史的な出来事でもあり、何か連携ができればと思っています。ただご指摘のように工場があるわけではなく、連携の仕方には悩んでいます。

SDGsについては、どのように表現するか、内部での宿題とします。

委員長

時間も当初予定をオーバーしてきましたが、皆さん、よろしいでしょうか。

事務局	<p>私も市長自らお越しいただき、お考えやビジョンとの整合性についてご説明いただきというのは初めての経験でした。</p> <p>それでは、議題（４）を終わらせていただきます。</p> <p>市長が最初におっしゃられた、「住宅都市＋新たな価値」というキーワードが産業ビジョンを貫いていくのではないかと思います。その新たな価値をどのようにまとめて打ち出していくのか、その中で、市民参加型という流れや方向性がいるような局面で出てくるのではないかと思います。特に、ビジネス交流スクールなどで具現化できるのではないかと思います。それ以外のいろんな局面を通じて、各市民が産業に関わり育てていく、そうした方向性が見えるようなまちづくりについてお話いただいたかと思ひます。「つながり」も重要なキーワードで、それを醸成していけるような仕組みをビジョンで提示できればと思ひます。</p> <p>あわせて、既存産業の持続可能性と新たな成長性を持てるように、新たな価値を作り出していく部分と、既存産業の持続可能性を両立させるということを次回の検討につなげられればと思ひます。</p> <p>事務局からは、提示した川西市産業ビジョンの体系と主要施策の案で意見を聴きたいというテーマが３つありました。振り返りますと、ひとつ目は「１．しごととの創出と暮らし・まちの活性化」のところで、コワーキングスペースに関するもう少し意見がいただきたいということです。２つ目は「３．既存産業の持続と活性化」の特に「３－２．工業の活性化と持続」のところで、実際の中小企業からニーズがどこにあるのかという点です。３つ目は「４．産業を担う人材確保と育成」のところで、特に次世代トップリーダー養成講座について、先ほどの意見交換でも補助金や補助体制だけでなく、相談も含めた緩やかな結びつきも踏まえながら、どういった事業承継などのプログラムにつなげていけばいいか、そのあたりのご意見もいただきたいとのことでした。それらについても、次回議論したいと思ひますし、それに先立って、それぞれの専門の方々から、提案シートでご意見を頂戴できればと思ひます。</p> <p>最後に、花火大会の位置づけといった話もありましたが、事務局には新規・追加事業案のところをもう一度精査していただき、追加などお願いします。次回はある程度、まとまった提案を受ける局面になりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>今日は多くの議論ができました。次回は素案が出てきますが、そこにつながるのではないかと思います。ありがとうございました。</p> <p>ここで、事務局にお返しします。</p> <p>4、閉会</p> <hr/> <p>円滑な会議の進行をありがとうございました。</p> <p>委員の皆様も多くの貴重な意見・議論をしていただき、ありがとうございました。</p>
-----	--

た。

会議の進め方を含め、本日お時間の都合上、発言いただけなかったポイントなどございましたら、ご意見・ご提案シートのご提出をお願いいたします。市長から聞き足りなかったことなどありましたらそれも付け加えていただければ、後日、市長に確認いたします。

シートの提出は10月2日（月）までに事務局にメールでお願いします。

次回の会議開催は、10月12日（木）を予定しております。

本日は長時間にわたりご議論いただき、ありがとうございました。オンラインでご参加の方はズームミーティングからの退出をお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。